

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。  
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第48回 意識的に会話を

上司も人間なので、部下に苦手なタイプがいるのも当然です。しかし、仕事をする上で「大切な部下だと思っている」ことを伝え続けることは重要です。

苦手なタイプにこそ対話重視しアピール

「どうも、あの部下とは馬が合わないな」「あいつと一緒に仕事をすると、ぎくしゃくしてしまう」。上司ならば、そんな部下を抱えることもよくあります。上司だって人間です。人間として好きなタイプもあれば、嫌いなタイプだっているのは当然です。どんな相手とも、同じように親密な関係を築ける人の方が、むしろ

珍しいと言えるでしょう。

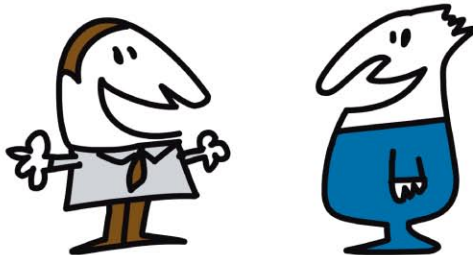
しかし、嫌いだから、相性が悪いからといって、その部下とコミュニケーションを取らなったり、遠ざけたりするのは良くありません。どんなに馬の合わない人でも、仕事をする上で大切な部下であることに変わりはないのです。そこでわたしは、嫌いな部下、苦手なタイプほど話し掛けるように努めています。仕事の話はもちろん

ん、仕事以外の話でも、どんどん話し掛けるのです。苦手なタイプなので、話が弾むとは限りません。それでも、上司として、「わたしはあなたのことを大事な部下だと思っています」「あなたのことをいつも気に掛けているのです」というメッセージは送り続けることが重要です。

好き嫌いや相性は別適任かどうかで判断

上司の多くは、「どんな部下でも平等に接しています」と言いますが、同じように接するという程度の意識では、まだまだ不十分です。ほかの部下と同じよう

に思っているも、苦手なタイプにはついつい話し掛ける回数が少なくなるものです。結果として、ほかの部下と同じように接するには、特に意識して話し掛ける



くらいでちょうどいいのです。部下にしても、上司が自分のことを好んでいるのか、苦手だと思っているのかというところくらい、気づいています。

もちろん、仕事を与える場合には、部下の好き嫌いはまったく判断基準に入りません。あくまでも、この仕事に対して、どの部下に任せるのが、もっとも適任なのかという部分にフォーカスして、冷静に見極めることが大切です。好き嫌いや自分との相性の善し悪しで判断しないように、特に心掛けが必要でしょう。

（『上司のルール』より転載）